

# 数学

名古屋大学 理学部、医学部、工学部、農学部、情報学部

(自然情報学科、コンピュータ科学科) (前期)

1 / 1

## <全体分析>

試験時間	150 分	解答問題数	4 題
------	-------	-------	-----

### 解答形式

全問論述式。

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

### 出題の特徴や昨年との変更点

共通問題が出題された。[2], [4]はそれぞれ文科系[2], [3]と共通)

### その他トピックス

3年連続出題された複素数平面からの出題はなかった。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	関数の極限 微分法	数学Ⅲ 数学Ⅲ	抽象的な関数の最大値を与える $x$ の値がただ一つであることを示し、具体的な関数の最大値を求める。	標準
[2]	整数	数学A	2次の不定方程式の整数解。	やや易
[3]	積分法	数学Ⅲ	円板が通過する領域の面積、球体が通過する領域の体積を求める。	標準
[4]	確率	数学A	整列したコインを裏返す操作に関する確率。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

2019年度以前の名古屋大学の問題は難しいものが多く出題されていたが、近年では、小設問が次の問題を解く手がかりになっているなど、取り組みやすいものが多く出題されている。一方、計算がかなり煩雑になる問題も見られる。

以上のことを踏まえて、まずは標準的な問題の解法を確実に身につけておこう。その後、本大学の過去の入試問題や入試攻略問題集 (河合出版) を用いて、難易度や傾向を把握しておくとうい。なお、微分法と積分法・確率・整数・数列・図形が頻出であるから、これらの分野は重点的に学習しておこう。